

たまむしぬま

玉虫沼

水^み

土^ど

里^り

ウォーク

初夏を楽しむ県内最古のため池

玉虫沼は、山辺町と朝日町に跨る丘陵地の中腹に位置し、室町時代にかんがいがため池として作られた。江戸時代に現在の大きさまで拡張され、約120 haの水田を潤している他、生活用水として利用されている。

玉虫沼一帯は山辺西部湖畔自然休養林に指定されており、中山間地域総合整備事業で遊歩道や農村公園等が整備された。こうした取り組みや、地元有志の「玉虫沼環境を守る会」等の活動が評価され、平成22年にため池百選に選定された。近隣を訪れた際には、水辺で夏の涼を味わいながら、森林浴を楽しんでみてはいかがだろうか。



ため池周囲の遊歩道

ため池保全管理への支援 ～山形県ため池サポートセンター～

近年、増加している突発的な豪雨等によるため池の被害を未然に防止するには、日常的に適正な保全管理が不可欠である。このため、ため池の管理者が適切に管理できるように専門スタッフによる相談対応や現場での指導助言等を行っている。



玉虫沼 周辺 MAP



① 大藤の棚田
春夏秋冬で違った景色が見られ、写真家も訪れるほど。「日本棚田百選」に認定されている。



② かおりの広場
きれいに整備されたラベンダー畑と野山の緑が調和して癒しの空間を形成している。



④ 龍神水
「里の名水・やまがた百選」に認定されており、山辺町の中でも一番水として知られている。



③ 出塩文殊堂
500メートルの参道を約2,500株の紫陽花が6月～7月にかけて咲き誇る。

玉虫沼の由来 ～玉虫姫物語～

昔、山野辺城の奥勤めの美しい侍女「玉虫」が神前に祈願すると1匹の白蛇を授かり、これを使うと飯が上手く炊けた。しかし、他の侍女の妬みから「玉虫は殿様に蛇飯を食べさせている」と噂される。奥方はあらぬ噂を晴らそうと、彼女が炊いておいた飯釜の蓋を開けてみると、白い飯の上に蛇が…その夜、玉虫の姿は消え、翌日、沼に浮いていた玉虫が見つかった。それ以来この沼は玉虫沼と呼ばれるようになった。この沼は何時も水面が清らかに輝いている。これは、玉虫が毎朝掃除をするからだと言われた。5月の玉虫明神の縁日に、東の空が白むころに沼を見ると、玉虫が箒で水面を掃く姿を見ることが出来ると伝えられ、これを見た人は一生幸運に恵まれると云われている。



玉虫を祀る玉虫大明神